

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	86	事業名	中央図書館事業	担当部課	教育部中央図書館
------	----	-----	---------	------	----------

基本情報	総合計画	基本方針	4	文化をみがき、人が輝くまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	2	住民の自主的な生涯学習活動を支える	款	9	教育費
		施策の進め方	-		項	4	社会教育費
	まちづくり 行程表	フラッグ	-		目	4	図書館費
		政策分類	-		大事業	3	中央図書館事業
	その他(関係法令、要綱等)		図書館法				
事業開始の背景、経緯等		町制20周年記念事業の一つであり、市民の生涯学習活動を支え、市民が憩い集う場所として、平成4年に図書館事業を開始した。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 図書館法に基づく業務。図書資料を収集、整理、保存し、市民に提供する。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民を始めとする図書館利用者。貸出対象は、市民在住、在学、在勤、在園者と広域地区利用者(瀬戸市、尾張旭市、日進市、豊田市、名古屋市名東区、守山区)					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民の教養の向上、調査研究の円滑な進捗、レクリエーション活動の充実等を意図する。					
	事業を構成する事務事業	① 中央図書館運営事業	拡充	④			
	② 中央図書館管理事業	拡充	⑤				
	③ 講座等企画事業	改善・見直し	⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	予算		159,291	89,493	92,309	96,705
			決算		144,189	86,851	88,861	
	人件費(B)	千円	決算		37,199	34,531	46,719	
総コスト(A)+(B)	千円	決算		181,388	121,382	135,580		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 市内利用者の貸出点数	点	目標	291,327	296,266	308,110	320,400	330,000
			実績	298,223	314,331	310,802	311,642	
	B 子ども読書活動推進計画事業の進捗率	%	目標	60	65	70	80	20
			実績	60	66	68	77	
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 長久手市民への個人貸出の貸出総点数の増減が、長久手市民の利用状況を端的に表しているため。								
B 子ども読書活動推進計画の各事業の達成状況の割合から計画全体の進捗率が判断できる。								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 図書館の管理運営形態について、H29年度、中央図書館管理運営検討委員会から、「直営が望ましい」との答申を受けて、図書館運営協議会で検討し、最終的に教育委員会で「直営」と決定した。今後も、郷土資料収集などの地域に根ざした長期的なサービスや経験を積み重ねた職員による質の高いサービスを長期的に安定的に提供できる「直営」の特性を図書館運営により一層活かしていく。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 貸出点数は、H29年度はH28年度よりも約1%増加となった。学校や児童館との連携事業の効果が一因と考えられる。子ども読書活動推進計画については、第1次計画の達成度は、77%に留まった。H30年度から第2次計画の事業を開始し、新たな事業の取り組みを進める。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 入館者数が減少傾向にあるため、新たな利用者を増やすための施策を検討し、新規利用者の増加につながるようにしていきたい。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 直営の強みを活かし、地域に根ざしたレファレンスサービスや企画事業、学校等との連携を含めた子ども読書活動推進事業を展開していく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) レファレンスコーナーへの司書の常駐化や第2次子ども読書活動推進計画に挙げた保育園・幼稚園との連携などの新規事業を実現する。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		中央図書館事業									
番号	①	事務事業名	中央図書館運営事業	款	9	項	4	目	4	大事業	3	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成4年度	終了（予定）年度	—								

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を始めとする図書館利用者に対し、図書資料を収集、整理、保存し、提供する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とし、市民の読書活動の活性化を図る。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		67,292 75,616	66,044 62,152	71,506 69,815	70,135
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 図書資料						19,995	千円
② コンピュータ賃借料						3,815	千円
③ 第2次長久手市子ども読書活動推進計画用データ分析等業務委託						616	千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
市内利用者の貸出点数	点	目標 実績	291,327 298,223	296,266 314,331	308,110 310,802	320,400 311,642	330,000
図書ボランティア活動者数	人	目標 実績	50 56	60 73	70 76	80 65	70
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞							
貸出点数については、昨年度の数値を若干ではあるが上回ることができた。ボランティア登録者数は、H29年度人数は、1年間ボランティア活動のなかった登録者を削除し実人数としたため若干減少したが、引き続き増加となるよう努力していきたい。							

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)

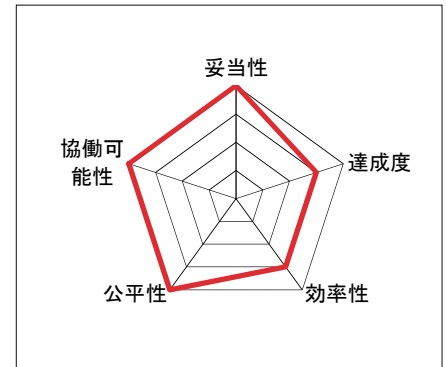
特になし

## 5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞
・ 第2次子ども読書活動推進計画を策定し、児童サービスの事業の拡大を図る。 ・ 市民ボランティアが図書館事業に参加し、生きがいづくりの場の提供を推進する。
(何をどのような状態に改善したのか)
・ 団体ヒアリング、アンケート、ワークショップ、策定委員会等を通じて市民意見を取り入れた「第2次長久手市子ども読書活動推進計画」を策定した。 ・ ボランティア登録の受入れを積極的に行った。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	4



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)  
おはなし会、書架整理など、多くのボランティアに支えられて事業が運営できている。また、図書修理ボランティアの技術力が向上している。勉強会の実施、図書館側との連携体制が良好であり、ボランティアとの協働体制がとれている。今後もボランティア研修を実施し、技術の向上に努める。

### 【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)  
学校連携事業は、学校現場から連携司書の常駐化の声があるが、児童・生徒数の増加によりクラス数がH29年度よりも増え、連携司書が現在の5人体制では、学校の要望に応えることができないため、増員が必要である。

## 7. 今後の方向性

拡充

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)

「第2次長久手市子ども読書活動推進計画」を策定したことから、計画に記された各種取組を実施していく。行政資料を含めた郷土資料の収集、保存、整理を行う。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		中央図書館事業									
番号	②	事務事業名	中央図書館管理事業	款	9	項	4	目	4	大事業	3	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成4年度	終了（予定）年度	—								

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を始めとする図書館利用者が快適に施設利用できるよう、図書館設備の管理・運営をする。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とし、市民の読書活動の活性化を図る。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		91,779 68,423	23,086 24,523	20,440 18,884	26,286
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 空調設備保守点検委託						2,106	千円
② 清掃等管理委託						6,982	千円
③ 駐車場・駐輪場借地料						4,113	千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
シルバー巡回回数	日	目標 実績	58 58	58 59	59 114	55 55	55
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞							
長久手市シルバー人材センターへ、屋外駐車場、敷地内、館内の巡視、図書返本業務等を委託した。							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

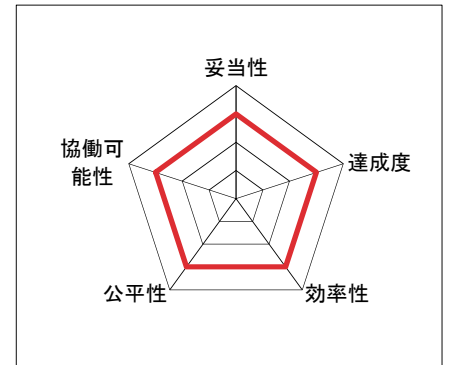
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
特になし

## 5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞
・ 図書館建物を長期的に有効活用するため、建物診断ができるように計画していく。 ・ 市民の安全・防犯体制が強化されるように防犯カメラ設置の他にも掲示内容の見直しなど、対策を検討していく。
(何をどのような状態に改善したのか)
・ 状況に応じて必要な施設修繕を行った。 ・ 館内利用者向けに「不明本探しの協力願い文書の掲示」、「雑誌へのスタンプ押印」、「無断持ち出しが犯罪である旨の警告文の掲示」等を行い犯罪抑制に努めた結果、前年度より不明本の数を減らすことができた。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
書籍の不明化を減らすため、館内に警告文書等を掲示したり、配架場所を変えるなどした結果、不明本数を減らすことができた。

### 【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
施設の老朽化が目立つが、修繕計画の策定には至っていない。

## 7. 今後の方向性

拡充

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
施設の建物診断を行い、修繕計画を作成し計画的に修繕することで建物の長寿命化を図っていく。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		中央図書館事業										
番号	③	事務事業名	講座等企画事業		款	9	項	4	目	4	大事業	3	中事業	3
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成4年度		終了（予定）年度	—								

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を始めとする図書館利用者に対し、図書館講座や企画展示を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 生涯活動の場として市民が図書館を活発に利用するとともに、市民が図書館事業へ参加できるようにする。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
事業費	千円	予算 決算		220 150	363 176	363 162	284	
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞								
①	ギャラリー企画展報償金		95					千円
②	印刷製本費		22					千円
③	損害保険料		3					千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
講座参加者数	人	目標	30	30	40	40	40
		実績	36	30	60	22	
企画展示回数	回	目標	4	4	4	4	6
		実績	4	3	6	6	

＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞  
絵本を通して親子が触れ合うブックスタートの理解を深め、ボランティア登録のきっかけともなる講座「ブックスタートってどんなこと？」を開催した。大学連携事業では、タブレット講座、人形を使ったおはなし会を実施した。他課とコラボ企画した本の展示などを実施した。

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

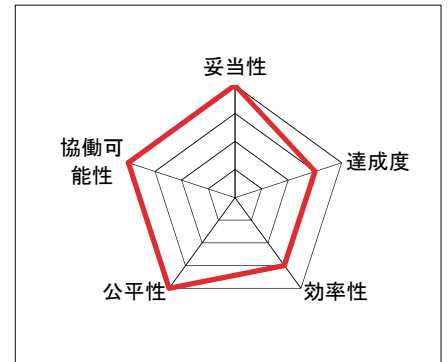
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)  
企画内容の拡充が望まれる。ニーズを把握し、実施に努める。

## 5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞  
経験年数の長い図書ボランティアや職員が講座講師となることを検討し、講座回数が増えるようにしていく。  
(何をどのような状態に改善したのか)  
ボランティアが講師を務める形での講座開催には至らなかったが、経験年数の長いボランティアが、図書修理や読み聞かせなどの勉強会で講師の役目を果たしている。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	4



## 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)  
館内で特定のテーマに沿った展示を、常時少なくとも3種類以上、年間通じて行った。他課とのコラボ的な企画展示も行った。

## (活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)

講座の種類、企画展示回数を増やしていくことを検討する。

## 7. 今後の方向性

**改善・見直し**

## 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)  
美術展等の企画展示は、催事内容について中央図書館で行う意義を改めて検討したい。  
講座・企画の種類についても、図書の枠にとらわれない「認知症と読書」など、視野を広げたテーマ設定を検討していきたい。